

2008 年度

科目名  <p style="text-align: center;">文化財情報論</p>	対象学科・学年 文学部文財2回生	担当者  <p style="text-align: center;">坪井 恒彦</p>
授業テーマ 新聞メディアを通して文化遺産のあり方を情報としてどう捕らえ、発信すべきか。		
授業の概要と目標 「文化財情報学」には、文化財自体から取り出した情報をどう処理し活用すべきかという課題と、文化財をめぐる様々な情報をいかに取り扱うべきかという問題が混在しています。本科目では、主に後者の問題へのアプローチとして新聞紙面に紹介された文化遺産にまつわる記事を素材に、「文化財情報」の読み解き方からその整理の仕方、さらに発信側の問題などについて学生諸君とともに考えます。それらの中から特に、開発問題にかかわる「景観」をキーワードに進めていこうと思います。		
評価方法 後期末の時間内レポートの内容により評価します。出席状況も重視します。		
テキスト 自作のレジュメ集、資料のコピーを配布します。	著者	出版社
参考書 風景学・実践篇 風景を目ききする 飛鳥——水の王朝	著者 中村良夫 千田 稔	出版社 中央公論新社 中央公論新社
授業スケジュール・内容 1. 「文化財情報」とは何か 2. 新聞紙面に見る文化財情報 3. 文化遺産としての文化的景観 4. 景観論争と新聞報道 5. 遺跡の景観復元と記者の視点 6. 「縄文ランドスケープ」論争 7. 長江流域と弥生環濠集落の景観 8. 三輪山祭祀と邪馬台国論争 9. 巨大古墳群周辺の風景 10. 古代宮都の景観の伝え方 11. 神仙思想・風水思想の風景の描き方 12. 情報としての日本人の風景観 13. 文化遺産を活用するための情報とは 14. 文化財情報の組み立てと発信について 15. 時間内レポート		